



2025年7月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年6月12日

上場会社名 プレミアアンチエイジング株式会社 上場取引所 東
コード番号 4934 URL <https://www.p-antiaging.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松浦 清
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 (氏名) 上原 祐香 TEL 03-3502-2020
コーポレートコミュニケーション本部長
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2025年7月期第3四半期の連結業績（2024年8月1日～2025年4月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する 四半期純利益 | |
|---------------|--------|-------|-------|-------|-------|-----|----------------------|---|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 2025年7月期第3四半期 | 12,500 | △19.0 | 1,266 | — | 1,214 | — | 762 | — |
| 2024年7月期第3四半期 | 15,439 | △25.1 | 3 | △92.4 | 44 | 1.3 | △1,450 | — |

(注) 包括利益 2025年7月期第3四半期 771百万円 (—%) 2024年7月期第3四半期 △1,452百万円 (—%)

| | 1株当たり 四半期純利益 | 潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益 |
|---------------|-----------------|----------------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 2025年7月期第3四半期 | 87.49 | 87.42 |
| 2024年7月期第3四半期 | △166.37 | — |

(注) 前第3四半期における潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失のため記載していません。

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 |
|---------------|--------|-------|--------|
| | 百万円 | 百万円 | % |
| 2025年7月期第3四半期 | 10,682 | 6,903 | 64.6 |
| 2024年7月期 | 11,002 | 6,124 | 55.7 |

(参考) 自己資本 2025年7月期第3四半期 6,895百万円 2024年7月期 6,124百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|--------------|--------|--------|--------|------|------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 2024年7月期 | — | 0.00 | — | 0.00 | 0.00 |
| 2025年7月期 | — | 0.00 | — | | |
| 2025年7月期（予想） | | | | 0.00 | 0.00 |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2025年7月期の連結業績予想（2024年8月1日～2025年7月31日）

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属 する当期純利益 | | 1株当たり 当期純利益 |
|----|--------|-------|------|-------|------|------|---------------------|---|----------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 16,000 | △21.4 | 300 | 115.7 | 250 | 55.0 | 120 | — | 13.76 |

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無
新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更に関する注記)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

| | | | | |
|---------------------|------------|------------|------------|------------|
| ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) | 2025年7月期3Q | 8,720,534株 | 2024年7月期 | 8,720,534株 |
| ② 期末自己株式数 | 2025年7月期3Q | 155株 | 2024年7月期 | 155株 |
| ③ 期中平均株式数(四半期累計) | 2025年7月期3Q | 8,720,379株 | 2024年7月期3Q | 8,720,379株 |

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 経営成績等の概況(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------------|---|
| 1. 経営成績等の概況 | 2 |
| (1) 当四半期の経営成績の概況 | 2 |
| (2) 当四半期の財政状態の概況 | 3 |
| (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 3 |
| 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 | 4 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 4 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 5 |
| (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 | 7 |
| (会計方針の変更に関する注記) | 7 |
| (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記) | 7 |
| (セグメント情報等の注記) | 8 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 9 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 9 |
| (四半期連結損益計算書に関する注記) | 9 |
| (四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記) | 9 |

1. 経営成績等の概況

（1）当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、一部に足踏みもみられるものの、緩やかな回復が続きました。賃金は高めの伸びを維持し個人消費は底堅く推移しましたが、物価高を受けた家計の節約志向の強まりから、食料品など非耐久財の消費には伸び悩みの動きもみられました。国内化粧品市場についても、成長のスピードは落ち着いてきているものの、景気が回復する中で緩やかな成長が続いています。

こうした状況の下、当社グループは、厳しい事業環境下においても着実に利益を創出できる筋肉質な企業体質の確立に向け、ブランドマネジメントと各チャネルの協働強化によりブランド価値の再構築を図るとともに、適正なコストマネジメントに努めています。

当第3四半期連結累計期間における売上高は、子会社の株式会社ベネクスを通じて行っているリカバリー事業の売上が順調に伸ばしたものの、当社で行っているアンチエイジング事業の売上が減収となり、全体では12,500百万円（前年同期比19.0%減）となりました。一方、営業利益は、アンチエイジング事業の減収により売上総利益が減少したものの、通信販売チャネルにおいて、新規獲得の広告効率が十分に改善しなかったことから広告宣伝費を中心とした販売費を抑制したこと及び、固定費の削減を継続し、適切なコストマネジメントを実行したこと等から、1,266百万円（前年同期比1,263百万円増加）となり、経常利益は1,214百万円（前年同期比1,170百万円増加）、親会社株主に帰属する四半期純利益は762百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失1,450百万円）となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

アンチエイジング事業

（単位：百万円）

| | 前第3四半期連結累計期間 （自 2023年8月1日 至 2024年4月30日） | 当第3四半期連結累計期間 （自 2024年8月1日 至 2025年4月30日） | 前年同期比 （%） |
|---------------|---|---|--------------|
| 売上高 | 14,102 | 10,257 | △27.3 |
| 営業利益又は営業損失（△） | △166 | 1,099 | — |

売上高

アンチエイジング事業の売上高は、10,257百万円（前年同期比27.3%減）となりました。

チャネル別の売上高は、通信販売・卸売販売ともに前年同期を下回りました。

通信販売は、前期より取り組んでいる新規獲得効率の徹底を継続するとともに、顧客構造を強化するCRM施策の拡充等に努めています。しかしながら、新規獲得の競争環境が厳しい状況が継続していることや、CRM施策を通じた既存顧客の活性化の効果が上がるにはまだ時間がかかることから、売上の減少が続いています。

卸売販売は、既存ブランドの新価値認知を獲得するPRプロモーションとのタイアップを推進し、店頭とECモールのお客様に、価値の最大化に向けた取り組みを強化しております。両チャネル専用新ブランドのローンチで、卸先企業との連携の進化に戦略的に取り組んでいますが、商品全面リニューアルの影響から売上は前年同期を下回りました。

ブランド別の状況は次の通りです。

「デュオ」ブランドは、2025年2月にブランド誕生から15周年を迎えることを機に、「ザ クレンジングバーム」シリーズ5種をリニューアル新発売いたしました。容量90gの通常サイズに加え、新たに発売した店舗限定66gサイズ、18gミニサイズの販売も好調に推移しています。引き続きさまざまなチャネルを通じて「デュオ」の機能的価値を訴求し、更なる需要の喚起を図ってまいります。

「カナデル」ブランドは、2024年9月にシリーズ累計出荷個数が900万個を超え、肌の悩みが変化する大人世代の高機能エイジングケアブランドとして認知が高まっています。新ブランドキャラクターを起用した広告宣伝を通じ、販売チャネルにも広がりが見られます。2025年4月から新たに投入した、オールインワン前のファーストステップで肌悩みケアをサポートする新商品「カナデル チューニングローション[医薬部外品]」も計画通りの滑り出しを見せています。

「クレイエンス」ブランドは、2025年3月にブランド誕生3周年を迎え、キャンペーンやワークショップを通じてお客様とのコミュニケーションを強化しています。2025年4月には累計出荷個数が200万個を超え、引き続き総合ヘアケアブランドとしての育成を図っています。

この他、ファスト美容医療発想を叶える新たなスキンケアブランド「Lalaskin（ララスキン）」を2025年4月より一部のバラエティショップ、ドラッグストア、GMS、ECモールで先行発売し、初期販売は計画通り進捗しています。また、インナーケア事業のサプリメント「シントー リポソーム ビタミンC」や高濃度ビタミンCスキンケア「C+mania（シーマニア）」等のテストマーケティングを継続しております。

営業損益

営業利益は、減収により売上総利益が減少したものの、通信販売チャネルにおいて、新規獲得の広告効率が十分に改善しなかったことから広告宣伝費を中心とした販売費を抑制したこと及び、固定費の削減を継続し、適切なコストマネジメントを実行したこと等から大幅に改善し、1,099百万円（前年同期は営業損失166百万円）となりました。

リカバリー事業

(単位：百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 2023年8月1日 至 2024年4月30日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 2024年8月1日 至 2025年4月30日) | 前年同期比 (%) |
|------|---|---|--------------|
| 売上高 | 1,337 | 2,242 | 67.7 |
| 営業利益 | 163 | 167 | 2.4 |

売上高

売上高は、主力製品のスタンダードドライブプラスやコンフォートポンチなどの販売が伸長し、計画を上回る2,242百万円（前年同期比67.7%増）となりました。サプライ・チェーン・マネジメント強化による在庫の適正化などの継続的な取り組みも売上伸長に貢献しています。

営業利益

売上高の増加に伴い売上総利益は増加したものの、更なる売上成長を図るためのテレビCMやデジタルマーケティングを中心とした投資を実施していることから、営業利益は167百万円（前年同期比2.4%増）となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比較して319百万円減少し、10,682百万円となりました。主な増減要因は、次のとおりであります。

流動資産は、前連結会計年度末と比較して240百万円減少し、8,641百万円となりました。これは主に、売掛金の減少141百万円、現金及び預金の減少178百万円によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末と比較して78百万円減少し、2,041百万円となりました。これは主に、有形固定資産の減少40百万円、のれんの減少31百万円によるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末と比較して1,099百万円減少し、3,778百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末と比較して、551百万円減少し、3,207百万円となりました。これは主に、短期借入金金の減少608百万円によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末と比較して、547百万円減少し、571百万円となりました。これは主に、長期借入金金の減少477百万円によるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末と比較して779百万円増加し、6,903百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益762百万円によるものであります。

その結果、自己資本比率は64.6%になりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループの売上の大半を占めるアンチエイジング事業の事業環境や当第3四半期連結累計期間における業績の進捗状況等を勘案し、現時点で入手可能な情報や予測等に基づき、2025年7月期通期の連結業績予想を修正いたしました。詳細につきましては本日（2025年6月12日）に別途公表いたしました「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (2024年7月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (2025年4月30日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 4,760 | 4,581 |
| 売掛金 | 1,727 | 1,586 |
| 製品 | 1,112 | 1,484 |
| 原材料及び貯蔵品 | 474 | 439 |
| その他 | 807 | 549 |
| 流動資産合計 | 8,882 | 8,641 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | 610 | 569 |
| 無形固定資産 | | |
| のれん | 352 | 320 |
| その他 | 646 | 641 |
| 無形固定資産合計 | 999 | 961 |
| 投資その他の資産 | 510 | 509 |
| 固定資産合計 | 2,120 | 2,041 |
| 資産合計 | 11,002 | 10,682 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 買掛金 | 204 | 429 |
| 短期借入金 | 1,008 | 400 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 385 | 211 |
| 1年内償還予定の社債 | 26 | 26 |
| 未払金 | 871 | 555 |
| 未払法人税等 | 23 | 405 |
| 賞与引当金 | 81 | 42 |
| 契約損失引当金 | 308 | 49 |
| その他 | 848 | 1,086 |
| 流動負債合計 | 3,759 | 3,207 |
| 固定負債 | | |
| 社債 | 43 | 23 |
| 長期借入金 | 980 | 502 |
| 契約損失引当金 | 52 | - |
| 資産除去債務 | 6 | 14 |
| その他 | 34 | 30 |
| 固定負債合計 | 1,118 | 571 |
| 負債合計 | 4,877 | 3,778 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 1,351 | 1,351 |
| 資本剰余金 | 1,351 | 1,351 |
| 利益剰余金 | 3,404 | 4,167 |
| 自己株式 | △1 | △1 |
| 株主資本合計 | 6,106 | 6,869 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| 為替換算調整勘定 | 17 | 26 |
| その他の包括利益累計額合計 | 17 | 26 |
| 新株予約権 | - | 8 |
| 純資産合計 | 6,124 | 6,903 |
| 負債純資産合計 | 11,002 | 10,682 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 2023年8月1日 至 2024年4月30日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 2024年8月1日 至 2025年4月30日) |
|---------------------------------------|---|---|
| 売上高 | 15,439 | 12,500 |
| 売上原価 | 3,083 | 2,659 |
| 売上総利益 | 12,356 | 9,840 |
| 販売費及び一般管理費 | 12,353 | 8,573 |
| 営業利益 | 3 | 1,266 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 1 | 3 |
| 為替差益 | 53 | — |
| 雑収入 | 8 | 8 |
| 営業外収益合計 | 63 | 11 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 16 | 16 |
| 為替差損 | — | 47 |
| 雑損失 | 5 | 0 |
| 営業外費用合計 | 22 | 64 |
| 経常利益 | 44 | 1,214 |
| 特別利益 | | |
| 投資有価証券売却益 | — | 20 |
| 特別利益合計 | — | 20 |
| 特別損失 | | |
| 減損損失 | ※1 492 | — |
| 契約損失 | ※2 147 | — |
| 契約損失引当金繰入額 | ※2 250 | — |
| その他 | 18 | 2 |
| 特別損失合計 | 908 | 2 |
| 税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△) | △864 | 1,232 |
| 法人税等 | 585 | 426 |
| 過年度法人税等 | — | 43 |
| 四半期純利益又は四半期純損失(△) | △1,450 | 762 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△) | △1,450 | 762 |

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 2023年8月1日 至 2024年4月30日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 2024年8月1日 至 2025年4月30日) |
|--------------------|---|---|
| 四半期純利益又は四半期純損失 (△) | △1,450 | 762 |
| その他の包括利益 | | |
| 為替換算調整勘定 | △2 | 8 |
| その他の包括利益合計 | △2 | 8 |
| 四半期包括利益 | △1,452 | 771 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | △1,452 | 771 |

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（会計方針の変更に関する注記）

（「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用）

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」（企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。

法人税等の計上区分（その他の包括利益に対する課税）に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日。以下「2022年改正適用指針」という。）第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、当該会計方針の変更による四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

また、連結会社間における子会社株式等の売却に伴い生じた売却損益を税務上繰り延べる場合の連結財務諸表における取扱いの見直しに関連する改正については、2022年改正適用指針を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。当該会計方針の変更は、遡及適用され、前年四半期及び前連結会計年度については遡及適用後の四半期連結財務諸表及び連結財務諸表となっております。なお、当該会計方針の変更による前年四半期の四半期連結財務諸表及び前連結会計年度の連結財務諸表への影響はありません。

（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記）

（税金費用の計算）

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(セグメント情報等の注記)

I 前第3四半期連結累計期間 (自 2023年8月1日 至 2024年4月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

| | 報告セグメント | | | 調整額 (注) 1 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2 |
|-----------------------|----------------|---------|--------|--------------|--------------------------------|
| | アンチ エイジング事業 | リカバリー事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 14,102 | 1,337 | 15,439 | — | 15,439 |
| セグメント間の内部売 上高又は振替高 | — | — | — | — | — |
| 計 | 14,102 | 1,337 | 15,439 | — | 15,439 |
| セグメント利益又は損失 (△) | △166 | 163 | △2 | 5 | 3 |

(注) 1. セグメント利益又は損失 (△) の調整額5百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「アンチエイジング事業」セグメントにおいて、一部のソフトウェア仮勘定の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は492百万円です。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間 (自 2024年8月1日 至 2025年4月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

| | 報告セグメント | | | 調整額 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注) |
|-----------------------|----------------|---------|--------|-----|------------------------------|
| | アンチ エイジング事業 | リカバリー事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 10,257 | 2,242 | 12,500 | — | 12,500 |
| セグメント間の内部売 上高又は振替高 | — | — | — | — | — |
| 計 | 10,257 | 2,242 | 12,500 | — | 12,500 |
| セグメント利益 | 1,099 | 167 | 1,266 | — | 1,266 |

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書に関する注記)

※1 減損損失

前第3四半期連結累計期間（自 2023年8月1日 至 2024年4月30日）

当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

| 場所 | 用途 | 種類 | 減損損失 |
|------------------|------|-----------|--------|
| プレミアアンチエイジング株式会社 | 遊休資産 | ソフトウェア仮勘定 | 492百万円 |

当社グループは、原則として独立したキャッシュ・フローを生み出す最小単位をグルーピングの基準にしております。また、事業の用に供していない遊休資産については個別資産別に減損損失の判定を行っております。遊休資産については、今後の使用計画がないため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

当第3四半期連結累計期間（自 2024年8月1日 至 2025年4月30日）

該当事項はありません。

※2 契約損失及び契約損失引当金繰入額

前第3四半期連結累計期間（自 2023年8月1日 至 2024年4月30日）

クラウドサービスの使用中止を決定したことに伴う当該システムのライセンス契約に関連する損失であります。なお、将来の契約履行に伴い発生する可能性のある損失については、損失の見込額を契約損失引当金として計上しております。

当第3四半期連結累計期間（自 2024年8月1日 至 2025年4月30日）

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれん償却額は、次のとおりであります。

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 2023年8月1日 至 2024年4月30日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 2024年8月1日 至 2025年4月30日) |
|--------|---|---|
| 減価償却費 | 145百万円 | 188百万円 |
| のれん償却額 | 31 | 31 |